

神に賞賛される生き方 「宥和」

ピリピ4：1～5

去年の教会のテーマは「大観」でした。一つの物事に目を向けてしまうのではなく、対局を見出すために視線を変えて、大きく見るということでした。今年の教会のテーマは「宥和」です。「宥和」とは、「相手の態度を大目に見て、受け入れること」という意味です。心を騒がせるようなことが起こった時、大きな問題が起こった時、今だけを見るのではなく、大きく見極めて宥和することを経験することを教会のテーマにしていきたいと思えます。

■ 与えることの喜び～ピリピ書4章1節～5節～

今年どのように歩むか思いながら、ピリピ書4章1節～5節を見ていきましょう。4章は「与えることの喜び」で、「宥和」、これがまさしく与えることです。ピリピ書では、試練の中でどう乗り越えるか、奉仕の中でどう喜ぶか、信じられない時にどう信じるのかという話をした後に、手紙の最後に、そういうわけだから、あなたは与えなさいと書かれています。ピリピというのは、パウロにとって優秀な教会でした。その中にいる二人の女性ユウオデヤとストケに仲良くしなさいと言いました。この二人は対立していました。パウロはピリピにいる人たちに、彼女たちが一致できるように助けてあげてくださいとお願いしています。パウロは、手紙の最後にどうしても言わなければならない、敵対してはいけない、寛容な心をすべての人に知らせなさいと書き記しています。今年それぞれがもった志を成し遂げる方法は、愛という、人とともに生きる道です。すべてのテーマは、隣の人をいって初めて成り立つのです。私たちは、仲間と敵を見出そうとします。しかし聖書では、敵と思う人を隣人と呼び、自分の如く愛しなさいと言っています。

■ 与えらるる志は一代・一人では終わるものではない ～テラの人生～

創世記では、テラはその息子アブラム（後のアブラハムで「信仰の父」と言われる人）、ハランの子で孫のロトとアブラムの妻サライとを伴い、カナンの地へ行くように言われます。しかし、テラは志半ばで、その手前のハランで終わってしまいます。その後アブラムは、75歳になっていたが、父テラの強い思いを継承して、主のお告げになった通り、甥のロトを伴い、カナンの地へ出かけていきました。一人の人の人生の計画は、その友がいて、継承者がいて、その人と一緒にやる人がいて、初めて成り立つものなのです。ですから、一人でしてはいけません。あなたは決して一人ではない事を忘れないでください。

■ アブラハムとロト

ところが、その地に戻って住んでみると、一緒に手を取るべきアブラムの使用人とロトの使用人とが争い始めます。ロトは幸せにのまれて、いつも問題を起こしました。そこで、アブラムは、争いがないように、分かれて住むことを提案し、ロトに先に好きな土地を選ばせました。ロトは、ソドムとゴモラに行き、誘惑にあっけてしまいます。どこに行くかゴールを分かっているならば、ロトのように間違った決断をしてしまうのです。あなたは、どこへ進むべきか、ゴールを知っていますか。正しい決断をする時には、聴く耳が必要です。聴く耳をもつことができないのは、聴く必要がないからです。行く道を知らないからです。行く道を知らないと、道に迷っていることにも気が付きません。「どうしてこんなことが起きるのだろう」と思う時こそ、聴く耳をもつことが大切です。しかし、そんな時は、なかなか聴くことができません。たいてい、聴きたくない人から言われるのです。正しいか正しくないかの指標は、あなたがゴールに向かうための道として、それが正しいかどうかです。何が目的か理解されていれば、その時に起こった現状を判断して、聴く耳がもてるのです。

■ 神様とアブラハム

ロトは豊かになるが、敵国に襲われて捕囚になってしまいます。アブラハムはロトを命がけて救いました。そしてソドムの王から感謝されて戦利品をもらってくださいと言われます。しかしアブラハムは、戦利品を受け取りませんでした。アブラハムを富ませたのはソドムの王と言わせないためです。そして神様から祝福されるとい

う目的が分かっていたからです。彼は神に対して忠実であったため、神から愛されました。主は、子どもがないアブラハムに子孫を与えられ、また、「わたしがしようとしていることをお前に隠しておくべきだろうか。」とまで言われました。その後、ロトはソドムの中から救済されます。私たちは外側を着飾ってもだめなのです。あなたの出す決断がどれほど大切か知ってください。

■ 「愛（恵み）」＝「寛容」＝「赦し」 ～第1コリント13章4～5章～

「愛は決して絶えることはありません。」愛を知っていれば間違えることはありません。自分が正しいと思うと、そこで神の恵みは終わってしまいます。また振り向いてもいけません。過去にとらわれると、新しい決断ができないからです。愛とは、あなた自身の内側を制するものです。愛とは神の恵みです。「恵み」とは、アガペーの愛で、変わることがありません。だから、こんな間違ったロトでさえ、恵みを与えられました。あなたは、もし人を憎むなら、神が愛して恵みを与える人を憎むことになるのです。そして「愛は寛容です」寛容とは赦しです。つまり「愛（恵み）」＝「寛容」＝「赦し」となるわけですね。

■ アレックスのレモネード

アレックスは1歳の頃から小児がんでした。4歳の時、友達の前で死に向き合い、レモネードを売ったお金を病院に寄付しようと、レモネードスタンドを開きました。「もし人生が酸っぱいレモンをくれるなら、おいしいレモネードを作ればへっちゃらよ。」おいしいレモネードは酸っぱいレモンがあるから作れるのです。彼女は余命宣告を受けても、レモネードスタンドに立ち続けました。彼女の目標は、レモネードを販売し、1億円を寄付することでしたが、その目標間近で天国へ帰っていきました。しかし、その志を受け継ぎ、仲間や応援者が今もその活動を続けています。世の中には2つの決断があります。「なぜ私だけこんな目に合うの？」と「私を通して何かができるかもしれない。」あなたはどちらですか。死が定められているのは、神の恵みです。死があるから、私たちは今を生きることができるのです。

■ 1月2日家庭礼拝

家庭内、近しい人達に対して赦し、愛する事が出来ているでしょうか？私達は赦されたのだから、赦されたものとして、赦せない相手を赦す決断をすることができます。私達にはすべきことをする責任がありますそれは「赦すこと」「愛すること」です。私達が赦すことによって、例え現状は一度に変わらなくても、私達の内側は神によって大きく変化していきます。あなたの心に回復が起こると地は産物をもたらすからです。アブラハムはどんな状況の中でもロトを赦し、愛しました。そのアブラハムは神から圧倒的な祝福を受けたのです。私達もアブラハムのように決断し行動していきたいですね。そしていのちがけて人類に神の赦しを与えて下さったお方がイエスキリストです。神の愛（赦し）は一方的な神の恵みであります。それを知っている私達は、赦さない事を繰り返してはいけません。赦せない人がもしいるなら、赦す決断をしていきましょう。

祈り

神は、すべての人に平等に神の特権、意思決定権を与えました。年の初め、あなたが掲げた抱負は、あなたの決断によって友とともに成されるときに完成されます。今あなたが心の内に受け入れることができない環境や人に対して、それを愛し、祈っていきましょう。主はあなたの祈りに答えられます。あなたは変われます。外側でなく、内側を美しく保つものでありたいと願います。一時の判断で人生を誤ることがないように、ともに祈っていきましょう。

(要約者：浅野 恵子)

(2022年1月1日)